

花と緑の教室 要予約 開催日の1ヶ月前から電話受付	
会場・集合場所／花と緑の情報センター2階(無料入館エリア)	
7 9(日) 13:30-15:00	「植物学講座③ ヒマワリ～日に向かって回る?」 ●定員:30名 ●参加費:300円 ●講師:植物園友の会
9 10(日) 13:30-15:00	「植物学講座④」 ●定員:30名 ●参加費:300円 ●講師:植物園友の会
9 13(水) 13:30-15:00	「植物園花散歩⑦ 新潟の植物」 ●定員:15名 ●参加費:300円 ●講師:久原泰雅(新潟県立植物園)

夏休み体験教室 10:00～15:00 ●当日随時受付(参加有料)	
会場／★花と緑の情報センター または ◆観賞温室第3室(入館無料エリア)	
7 29(土)	植物園友の会「DNAストラップを作ろう」★ ●参加費:300円
7 29(土) 30(日)	ジャパンハーブソサエティ「親子ハーブクラフト体験」◆ ●参加費:500円～
8 5(土)	植物園友の会「かんたんハーブ石けんを作ろう」★ ●参加費:300円
8 5(土) 6(日)	小国和紙生産組合「小国和紙花いっぱいわっぱ紙漉きと折って切って花の切絵」◆ ●参加費:紙漉き800円(送料込)・切絵600円
8 6(日)	植物園友の会「偏光万華鏡で光の謎にせまろう」★ ●参加費:300円
8 10(木)～17(木)	NPO法人お山の森の木の学校「木の手づくり木工教室」★ ●参加費:400円～3,000円
8 26(土)	植物園友の会「いろいろな竹笛を作ろう」★ ●参加費:300円
8 27(日)	花はなくらぶ「親子レカンフラワー教室」◆ ●参加費:1,200円

夜の植物園まつり
8|11(金) 12(土) 17:00開場・19:30終演(予定)

夜に咲いて香る花など、普段見ることができない熱帯植物の夜の姿を観察しよう!

〈夏の夜間開館〉開館時間延長●20:30閉館(入館20:00まで)

林家木久扇 植物園納涼ENGEI寄席

●料金/大人(高校生以上) 2,000円 ●会場/情報センター2F 研修室(入館無料エリア)
子ども(中学生以下) 1,000円 ※チケット販売については植物園に電話でお問い合わせください

毎月第2・4日曜日 9:30-10:15

にいがたコーヒープロジェクト主催
「ドリップコーヒーの基本レシピ。基本の“き”編」

●会場:観賞温室第3室カフェ「にいがたコーヒラボ」
●定員:3名 ●参加費:1,200円(温室入館券付き)

要予約・開催日の1ヶ月前から電話受付(県立植物園 0250-24-6465)

企画展示 観賞温室第2室(要入館料)

開催中 7|17(日) 初夏のガーデンショー ハーブとアジサイ展
7|20(木) 9|10(日) 食虫植物展 もっと知りたい! 植物の技
9|13(水) 11|12(日) オータムガーデンショー

観賞温室第3室 作品展示

7|4(火) 7|17(日) 「花の香りに包まれて ハサミde切り絵」
出展:Tommys Stone/Hiro
7|20(木) 8|6(日) 「脳のトレーニング!? 小国和紙切り絵どうぶつ園」
出展:(有)小国和紙生産組合
8|8(火) 8|20(日) 「博物館実習生展示」出展:博物館実習生
8|22(火) 9|3(日) 「植物色図鑑 色サンプル展5」出展:植物色図鑑
9|5(火) 9|18(日) 「はなはっぱみ展」出展:はなはっぱみ製作委員会
9|20(水) 10|9(日) 「レカンフラワー ～季節の花たち～」
出展:花はなくらぶ

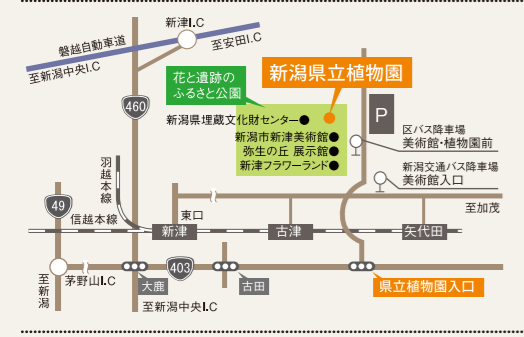
9|18 シルバー無料デー ※年齢を証明できる物の提示が必要です
敬老の日 <当日限り、65歳以上の方の温室入館料無料!>

- 両日開催
- 熱帯植物スポットガイド(要入館料) ●17:30-
 - 熱帯フルーツ試食(要入館料) ●18:00- (なくなり次第終了)
 - 体験コーナー(観賞温室第3室・入館無料エリア) ●17:00-20:00
「押し花のランプシェードを作ろう」(300円)「光る折り紙で遊ぼう」(100円)
 - 子ども縁日(屋外無料エリア) ●17:30-20:00
- 11日金祝
- 地元伝統芸能(観覧無料) ●17:30-19:00
出演/朝日青年会、蒲ヶ沢神楽保存会 会場/情報センター前テラス
 - カフェライブ「MUSIC DRIP」(観覧無料) ●16:30- ●19:15-
出演/岡村翼 会場/にいがたコーヒラボ(入館無料エリア)

新潟県立植物園

〒956-0845 新潟市秋葉区金津186番地
TEL.0250-24-6465 FAX.0250-24-6410
HP http://botanical.greenery-niigata.or.jp/
指定管理者 国際総合学園・都市緑化センターグループ

f t 情報発信しています
新潟県立植物園 検索



◆観賞温室開館日 温室開館時間/9:30～16:30(入館締切16:00) □休館日 ●臨時開館日

7 July							8 August							9 September						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	・	・	1	・	・	1	2	3	4	5	・	・	・	・	・	1	2
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30	31	・	・	24	25	26	27	28	29	30

◆観賞温室利用案内

	個人	団体(20名以上)	回数券(5回分)	定期券(6ヶ月)	屋外園地無料	小中学生 土・日・祝日無料
大人	600円	480円	2,500円		1,200円	●シルバー料金での入館は生年月日を証明できる物の提示が必要となります。 ●高校生・学生料金での入館は学生証の提示が必要となります。 ●身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳所持者は無料となります(等級により介助者無料)。 ●屋外園地無料 小中学生 土・日・祝日無料
シルバー(65歳以上)	500円					
高校生・学生	300円	300円				
小・中学生	100円	100円				

◆交通アクセス

■JR 信越線古津駅下車徒歩約25分

■バス 区バス:新津駅東口から「新津駅西口」行き「美術館・植物園前」下車徒歩約1分
新潟交通バス:新津駅東口から「矢代田經由白根・湯東営業所」行き「新津美術館入口」下車徒歩約10分

■高速道路 磐越自動車道新津I.Cから国道403号で三条/加茂方面へ約15分

■一般道路 (新潟方面から) 国道49号から茅野山I.Cを国道403号加茂/新津方面へ

駐車場無料:310台収容

新潟県立植物園 植物園だより

2017 summer Vol.68



タマアジサイ
Hydrangea involucrata
アジサイ科

●分布/本州(福島県以南と関東地方から中部地方の表日本)
タマアジサイの和名はふくらんだ蕾が大きな白っぽい鱗片(苞)に包まれて玉のように見えるので、この名が付けられた。
葉は洋紙質、両面に硬い毛が密生してざらつく。花は開花直前まで総苞に包まれて玉のようであるが、苞が脱落すると花序の枝が伸びて更に散房状に分れて多数の小花を付ける。
附記/本種をヤマタバコと呼ぶ地方もある。昔、タバコ不足のころ葉をタバコの代用品として愛用されたことからつけられた。
解説: 富樫信平(抜粋)



虫をはさんで捕まえるハエトリソウ



袋に虫を落とすアフロキソコキソタ



粘液で虫をからめとるモウセンゴケの仲間

観賞温室
企画展示
1

食虫植物展

もっと知りたい! 植物の技 7/20(木) 9/10(日)

みんな大好き夏休み。今年も夏にぴったり植物園の食虫植物展。
独自の進化を遂げて不思議なたちと特徴、機能を持つ植物。虫が植物の蜜や葉などを栄養にすることが多いなか、虫を栄養にする「食虫植物」。虫にとってはなんとも恐ろしく怖い食虫植物の展示を開催します。

貝のように虫をはさんで捕まえる「ハエトリソウ」、蜜で虫をおびき寄せ袋に誘い消化液で溶かす「ウツボカズラ」、光に当たるとキラキラ輝く粘液で虫をからめとる「モウセンゴケ」、一度入ると出られない筒状の葉で虫を逃がさない「サラセニア」、葉の粘液で虫を捕まえる「ムシトリスミレ」など、食虫植物を子供から大人までじっくり観察できます。

期間中はオリジナル食虫スタンプラリー、植物関連クイズ、自由研究に役立つ調べ学習コーナー、展示名物の動く大型ハエトリソウ模型も登場し、会場内は子供たちの歓喜であふれます。食虫植物写真スポットも人気です。

個性的で魅力的な形の多肉植物の展示も行います。驚きとなるほどが満載の夏の植物園をご家族みなさんでお楽しみください。



過去の展示の様子



過去の展示の様子

今年の夏はイベント目白押し!

夏の植物園は、「食虫植物展」のほかにも楽しい企画が盛りだくさんです。
週末を中心に開催する夏休み体験教室は、レカンフラワー教室や竹笛づくり体験など新たな内容を加えてパワーアップ!(事前申込不要・随時受付)。

8月11日、12日の夜間開園日は、「夜の植物園まつり」をにぎやかに開催します。夜に咲いて香りを放つ熱帯植物の姿をわかりやすく解説するスポットガイドや熱帯フルーツの試食、小さなお子さんでも参加できる体験コーナーや子ども縁日をお楽しみください。また、第一夜は近隣住民の皆様による伝統芸能の披露や6月にオープンした話題のカフェ「にいがたコーヒーラボ」での音楽ライブ、第二夜は「林家木久扇 植物園 納涼ENGEL寄席」を行います。

熱帯植物の夜の姿をじっくりと観賞するもよし、お子さんとお祭りムードを満喫するもよし、音楽や落語に聴き入るもよし、様々な楽しみ方ができる夜の植物園でゆっくり過ごさせてはいかがでしょうか。

なお、お出かけの際は、本誌裏表紙の催事情報や植物園公式サイトでスケジュールや事前申込必要の有無などをご確認ください。皆様のお越しをお待ちしております。

夏休み体験教室



体験教室

夜間開園



カフェライブ「MUSIC DRIP」岡村 翼



植物園納涼ENGEL寄席 林家木久扇

にいがたコーヒープロジェクト始動!

ウィークエンドカフェ「にいがたコーヒーラボ」がオープン



にいがたコーヒープロジェクトメンバーが集合



大きなコーヒーノキも置かれている

日本初のバリスタ協会と植物園のコラボによるカフェの営業は、全国的にも注目を集めています。コーヒーノキをご自宅で育てて、豆を収穫して自分だけのコーヒーを飲んでみませんか?

「From Seed to Cup〜コーヒーの種からカップまで〜」をテーマとして、新潟県立植物園と新潟バリスタ協会がコラボレーション。植物園とバリスタ協会のノウハウを集結して、コーヒーノキの栽培からコーヒーの焙煎、抽出に至るまでのワークショップやイベントなどを行うとともに、植物園温室内にカフェ「にいがたコーヒーラボ」をオープンすることで、県内の緑化とコーヒー・カフェ文化の醸成と発展を目指します。

コーヒーノキが飾られたカフェでは、県内コーヒー専門店の名店から届いた新鮮なコーヒーをバリスタが一杯一杯丁寧にハンドドリップ。サイドメニューは県内有名カフェの手作り焼き菓子を週替わりで提供します。コーヒー専門店のコーヒー豆の販売も行います。

広々とした美しい景色を眺めながらのコーヒーブレイク。そんな贅沢な時をお楽しみください。

にいがたコーヒーラボ

- 場所: 観賞温室第3室1階(入館無料エリア)
- 営業日: 金・土・日・祝祭日 10:30~16:00 (冬期1月・2月は休業)
- ホームページ <https://niigata-cp.jimdo.com>
- facebook にいがたコーヒープロジェクト

観賞温室
企画展示
2

にいがたオータムガーデンショー

第1部 9/13(水) 10/9(日)
「カラーリーフ〜葉の魅力」

第2部 10/11(水) 11/12(日)
「暮らしと植物〜秋のガーデニング」

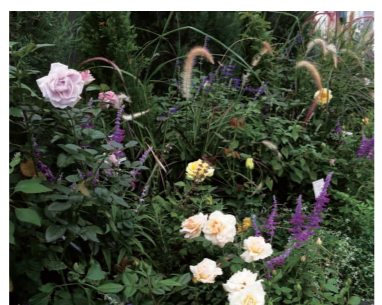
平成29年度の秋の展示は、1月から続くガーデンショーシリーズ。観葉植物や季節の植物をつかって秋の庭園を創出します。見て美しいだけでなく、ご自宅のお庭や玄関先のちょっとしたスペースなどに使える植物の種類や組み合わせなどを参考に、一歩上のガーデニングにチャレンジしてはいかがでしょうか。

第1部では、葉を観賞する植物を中心につくり上げる庭をご覧いただきます。葉の多様な形や色とその組み合わせにご注目ください。

第2部は、県内ガーデナーの協力により、寄せ植えやガーデニング、室内装飾など、家庭園芸の提案を行います。



過去の展示の様子



NEWS
1

エフエム新津で
レギュラー放送スタート

今年5月から、毎月第4金曜日の11時15分にエフエムにいつ(76.1MHz)「なじらねラジオ」のコーナーで「県立植物園情報」を放送しています。私たち運営スタッフがスタジオに出向き、パーソナリティーの大澤若奈さんとの楽しい掛け合いで展示や今見ごろの花や実の話、イベント情報をお伝えしています。植物園のタイムリーな話をぜひお聴きください。

(桐生綾香)



和気あいあいとしたスタジオでの収録



園内のカブトムシ



6月6日の幼虫の様子

NEWS
2

カブトムシハウス

植物園の一番奥。「にいがた自然園」の林の中に園内で育ったカブトムシを集めた「カブトムシハウス」を設置しました。ハウスとは名ばかりで、3m四方程度の骨組みの周りに金網を張った小屋のようなものです。

植物園でカブトムシ? とお思いの方もいらっしゃると思いますが、園内で発生する剪定枝のチップや枯葉をバックヤードに積んでおくと、周辺に生息するカブトムシが産卵して、次の夏に成虫が出てくるのです。この資源?を利用しない手はありません。

「カブトムシハウス」では子供たちの夏休み期間中、延べ100頭ほどのカブトムシを展示したいと考えていますが、カブトムシは暑さを嫌うため日中は土などにもぐって姿を隠す習性があることから、上手くお見せできるか心配しています。100頭ものカブトムシを飼育するのも初めての経験です。

カブトムシが大量に発生して飼育できれば、来園されたお子さんにプレゼントもできるのではないかと考えています。

(田中良明)

NEWS
3

日本で栽培される貴重な植物を守り、後世に伝える
～日本植物園協会のナショナルコレクション認定制度～

日本植物園協会では、2017年7月より「野生種、栽培種に関わらず、日本で栽培されている文化財、遺伝子資源として貴重な植物を守り後世に伝えていく」ことを目的とした植物コレクションの認定、保全の制度である「ナショナルコレクション認定制度」を開始しました。

認定されたコレクションを永続的に保全し、かつ情報を集約し公開することは我が国の植物・園芸文化の継承と発展にとって有益なこととなります。

現在、イギリスやフランスなど園芸文化が深く日常生活に根付いている国々では、自国で栽培される野生種や栽培品種などを守るための取り組みが行われています。我が国でも、ナショナルコレクション制度によって、野生種、有用植物や長い歴史を誇る日本独自の伝統園芸植物を含む観賞用植物などの生きた貴重な文化財を守り、後世に伝えていくことが可能となります。さらに、コレクションとして蓄積された植物と情報は、新たな品種の開発、遺伝子の解析、生物多様性の保全、生理・生態の解明、新たな植物加工素材の研究開発など、様々な場面での将来の活用が期待されます。

当園でも日本一のコレクションを誇るアザレアやシャクナゲなどを順次申請し認定を受けることで、末長く新潟県の宝を残していきたいと考えています。

(倉重祐二)

●ナショナルコレクションホームページ <http://www.syokubutsuen-kyokai.jp/nc/>



江戸時代以前のボタンは全て絶滅し、明治以降に作出された品種も失われつつある



オモトなどの貴重な日本独自の伝統園芸植物



イギリス、マーウッドヒルガーデンのアスチルベ(チダケサシ属)ナショナルプラントコレクション。平成27年7月植物園協会の海外事情調査にて視察。

NEWS
4

新潟県内を花や緑でいっぱいにするために
～緑化推進の拠点として～

県立植物園が「新潟県の緑化推進の拠点」としてより一層の機能・役割を発揮するために、今年4月より緑化推進課が新しく加わりました。ここでは、県内を花や緑でいっぱいにするための取り組みをご紹介します。

「花と緑のパートナーづくり事業」は、県の管理施設や小中学校を緑化し管理する団体に樹木や宿根草、土などの購入資金を助成するものです。県道沿いや河川敷、小中学校などに植栽するスイセンやアジサイなどの購入について助成しています。

「花と緑のアドバイザー派遣制度」は、植物に関する講習会、講演会などを計画している学校や公民館、町内会、住民団体等に、「花と緑のアドバイザー」(緑花センターに登録した花や緑の専門家)を講師として年間60回ほど派遣しています。

●事業の問い合わせ先／新潟県都市緑花センター 新潟県立植物園緑化推進課 TEL 0250-24-6465 FAX 0250-24-6410

「花と緑の教室事業」は、花や緑の育て方や楽しさ、魅力を知っていただくために、県立都市公園等で講習会を開催する事業です。地元新聞社や地域団体などと協力し、現在、県内9か所にて、年間380回程度の講習会を開催しています。

このほか、県立都市公園の風景やまちなかの花や緑を題材とした写真のコンテストの開催、新潟県都市緑花フェアやフラワーウェーブ新潟等の緑化関連イベントへの出展、街路樹の調査研究を行っています。

これまで(公財)新潟県都市緑花センターで実施してきた事業ではありませんが、県立植物園を拠点として再スタートを切ることによって、これまで以上に質の高い事業となるよう、職員一丸となり邁進してまいります。

(木山 成)



バラの植栽(花と緑のパートナーづくり事業)



自然観察会(花と緑のアドバイザー派遣制度)



人気のバラの栽培教室(花と緑の教室事業)



ハエトリソウ
Dionaea muscipula

ウサギゴケ
Utricularia sandersonii

ホザキノミミカキグサ
Utricularia caerulea
(撮影地:新潟県)

日本で帰化し増えている
オオバナイトタヌキモ
Utricularia gibba (撮影地:新潟県)

野生絶滅したムジナモ
Aldrovanda vesiculosa

新潟県と北海道でしか
見られないチビヒメタヌキモ
Utricularia minor f. terrestris

園内
ウォッチング
(温室)

特集●食虫植物

虫を食べる!? 食虫植物は、動かない、静かなイメージの植物の中で唯一、おどろおどろしい? 雰囲気を与える植物です。老若男女を問わず人気が高く、かの進化論を世に広めたダーウィン (Charles Darwin) もこの不思議な植物を詳細に観察し、ハエトリソウを「世界で最も驚くべき植物」と言わしめました。ダーウィンの子息 (Francis Darwin) もこの植物を好み、モウセンゴケが虫などの動物をとらえることで養分の少ない環境に適応していることをはじめ確認しました。

食虫植物には、エサ (植物では使わない言葉ですが・・・) となる生き物を①誘い、②捕まえ、③消化して、④吸収する機能があり、ウツボカズラやサラセニアなどでは、フタの付け根あたりから香りを出しているの、臭いにおいや甘いにおいがします。このにおいは、ハエなどを主に捕まえるものからは臭いにおいが、アリやチョウを捕まえるものからは甘いにおいがするとされています。また、ウツボカズラの消化液には、捕まえた動物を溶かす酸性の液だけでなく、動物の体の表面についている油を溶かす成分なども含まれているため、通常は水にぬれただけでは大丈夫な昆虫も、この中では溺れてしまうそうです。

育てる際に虫などをやった方が良いですかという質問を受けることがあります。元々多くの養分を必要としないため、肥料や虫などをやる必要はなく、おなかが減ると自分で捕まえているようです。

しかし実際には、食虫植物は植物が育つための養分が少ない場所でも生育できるように、小動物を捕まえて養分を補えるよう進化した植物ですので、他の植物との競争には弱く、ハエトリソウをはじめ、多くの種が絶滅の危機に瀕しています。

日本にも20種ほどの食虫植物が知られ、野生では絶滅したムジナモや花の美しいムシトリスミレ、新潟県と北海道にしか自生しないチビヒメタヌキモなどがありますが、野生種のほとんどが絶滅の危機に瀕しています。一方、昨年に特定外来種に指定されたナガエモウセンゴケ、オオバナイトタヌキモやインフラタ・タヌキモのように国外から持ち込まれた帰化植物が日本で爆発的に増え、ただでさえ少なくなっている在来の食虫植物の生育地を奪っているという問題もあります。

子供たちが夏休みを迎えるこの機会に、この不思議な食虫植物を観察して、植物の不思議な力や可能性を感じてもらえればと思います。意外に、生き物の持つ不思議な美しさに心を奪われるかもしれませんね! (久原泰雅)



キナバルエンシス・ウツボカズラ
Nepenthes x kinabaluensis

ウツボカズラの自生地 (ボルネオ島キナバル山)



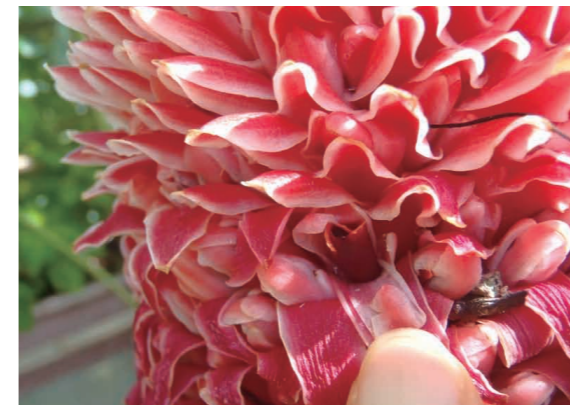
虫をとらえたモウセンゴケ
Drosera rotundifolia
(撮影地:新潟県)

サラセニアにとらえられたハチ

タヌキモの補虫囊 (ほちゅうのう)

園内
ウォッチング

インパクトのあるトーチジンジャー
(*Nicola elatior*) ショウガ科



花は濃い赤色で小さく、苞に隠れている



トーチジンジャー

例年だと夏に咲くトーチジンジャーですが、今年はひと足早く動き出し、4月に花が咲きました。見た目にインパクトがあり、直径10cm程の花序が鮮やかな赤色で火のついたたいまつ (トーチ) のように見えることからトーチジンジャーと名付けられました。花はというと苞 (ほう: 花の下につく小さな葉で、つぼみの中で個々の花を包んで乾燥や低温などから守っている) に包まれていて、よく観察しないと見えませんが、苞が反り返ると紅色をした小さな花がでてきます。

そして、「ジンジャー」の名前ですぐにピンとくる方も多いと思いますが、ショウガの仲間です。葉や根元をご覧くださいと新芽の出方が同じショウガ科のミョウガと似ているということも分かりいただけます。その他にもトーチジンジャーは、葉は葉だけの茎、花は花だけの茎というように葉と花が別々の茎から出る面白い特徴があります。トーチジンジャーのように暑い夏に向けて生き生きする植物がドーム内にいくつもありますので、ぜひ探してみてください。

(桐生綾香)

花と緑の相談コーナー
植物 Q&A

Q

毎年花は咲くのですが、アジサイが大きくなって困っています。アジサイは落葉樹なので、落葉後の冬期に剪定すればよいですか。

A

アジサイは落葉樹なので落葉後に剪定しても良いのですが、せっかく夏にできた花芽を落としてしまうことになります。アジサイは8月頃に充実した枝の先端にある芽に翌年に花を咲かせる花芽ができる性質があります。

そこで、丈を小さくして花も見するには、ある程度花を見たら、7月中旬に枝を切って丈を低くします。すると、剪定によって、止まっていた脇芽が少し伸びて短い枝になり、この短い枝の先端に花芽ができて、翌年開花します。

一つ注意があります。アジサイの仲間の白花のアナベル (アメリカノリノキ)、カシワバアジサイとノリウツギは、越冬前には花芽が無くて、春に新梢が伸びながら花芽ができて開花しますので、剪定は7月ではなく、落葉期に行います。

(園芸相談員 田中秀明)



左:アジサイは花後に剪定する/右:花色がピンクから緑色に変化するフェアリーアイなどの新品種も数多く発表されている



アナベル (手前) とカシワバアジサイ (奥) は落葉期に剪定